

東臼杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和6年2月 東臼杵農林振興局
（東臼杵南部農業改良普及センター）

目次

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き（P 2）

- 1) 【全域】令和5年度東臼杵南部農業改良普及事業協議会及び農業経営指導士会南部支部の合同会議を開催
- 2) 【県域】県産花き展示会2024が開催
- 3) 【椎葉村】令和5年度 椎葉村園芸部会定例総会が開催

II 主な普及指導活動等の取組み（P 3～6）

1 プロジェクト（基本、専門、重点）に関する普及活動

- 1) 【全域】宮崎方式営農支援体制農業者研修(応用研修Ⅳ)を開催
- 2) 【美郷町】きんかん承継体制づくりにかかる専門家相談を実施
- 3) 【全域】若手農業者等と農業経営指導士との意見交換会を実施
- 4) 【門川町】スイートピー部会の作業指示動画の作成を支援
- 5) 【全域】水稻大規模経営体ネットワーク化にかかる検討会を実施
- 6) 【全域】日向地域農業再生協議会担い手対策部会事務局会を実施
- 7) 【美郷町】重点農家で実施の日本種子協会展示ほ生育状況確認
- 8) 【美郷町】鬼神野地区水田の畦畔斜面に設置した抑草ネットの現地確認
- 9) 【美郷町】茶苗生産状況を現地確認
- 10) 【日向市・門川町】冬春ミニトマトの展示ほ調査を実施
- 11) 【日向市・諸塚村・美郷町】シキミの春彼岸出荷に向けた出荷数量を調整
- 12) 【日向市、門川町】露地へべすの管理講習を実施

2 プロジェクト（基本、専門、重点）以外の普及活動（P 7～9）

- 1) 【日向市】鳥獣被害対策に係る研修会の開催
- 2) 【椎葉村】肉用牛繁殖農家の現地検討会
- 3) 【諸塚村、椎葉村】夏秋品目の防除暦検討
- 4) 【諸塚村】令和6年産夏秋ミニトマト防除暦の周知
- 5) 【日向市、門川町】スナップエンドウ全戸巡回で適期防除を指導
- 6) 【全域】営農振興協議会野菜技術員会を開催
- 7) 【門川町】難防除害虫調査を支援
- 8) 【椎葉村】春の七草実績検討会が開催
- 9) 【椎葉村】ほうれん草専門部で産地ビジョン検討会を開催
- 10) 【椎葉村】次作に向けた施肥設計を支援
- 11) 【日向市、門川町】マンゴー、ハウスへべすの個別巡回を実施

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1) 【全域】令和5年度東白杵南部農業改良普及事業協議会及び農業経営指導士会南部支部の合同会議を開催

7日に日向市のJA日向本店において、管内の関係機関・団体等からなる普及事業協議会委員会と農業経営指導士会南部支部との合同会議を開催しました。

令和5年度普及活動実績及び令和6年度普及活動計画について、主に総合プロジェクト1～3を中心に概要を説明し、質疑応答や出席者の方々から様々なご意見やご要望をいただきました。いただいたご意見等を今後の普及活動に反映させていただきます。



【合同会議】

2) 【県域】県産花き展示会2024が開催

3～4日に宮崎市のイオンモール宮崎で、「みやざき花で彩る」県産花き展示会2024が開催され、管内からは26点が出品されました。来場者人気コンテストでは、4部門中3部門（スイートピー、ランキュラス、シキミ部門）で管内の出品が1位となりました。

今回は、新たにシキミ部門ができ、来場者は見事なシキミに驚かされていました。また、来場者は珍しい品種に興味を示したり、香りを楽しむなど、県内で沢山の美しい花が栽培されていることに関心されていました。



【イオンモールでの展示】



【藤本栄仁氏「恋かすみ」】



【椎葉勇気氏「湘南の虹」】



【末永敏幸氏「天照1号」】

3) 【椎葉村】令和5年度 椎葉村園芸部会定例総会が開催

27日、椎葉村開発センターで椎葉村園芸部会（会員46名）の定例総会が開催されました。

令和5年度は、猛暑の影響を強く受け、栽培管理が難しい年となりましたが、部会全体の販売額は前年を上回る1億6千万円を計上しました。

次年度は、販売額目標1億8千万円を掲げ、各品目共に活発な活動を実施していくことになりました。

また、優秀農家表彰や市場情勢報告、駐在OBによる講演等が行われ、部会員のさらなる生産意欲向上が図られました。



【椎葉村園芸部会定例総会】

II 主な普及指導活動等の取組み

1 プロジェクト（基本、専門、重点）に関する普及活動

1) 【全域】 宮崎方式営農支援体制農業者研修(応用研修Ⅳ)を開催

7日に日向市のJA日向本店で、宮崎方式営農支援体制農業者研修「経営継承：農業における農業経営継承と第三者継承の進め方～」と題し、(株)ケミストリー代表取締役の村上氏より基調講演をしていただきました。

本研修は、東臼杵南部農業改良普及事業協議会と農業経営指導士会南部支部の合同会議前に開催し、関係者を含めて26名が参加しました。

講演では、継承前の現経営の振り返りの必要性やブラッシュアップ、後継者とのコミュニケーション、資産の整理等について、ステップ段階毎に詳細に説明されました。

アンケート調査結果からは、「もっと具体的な事例を聞きたかった」や「時間が不足していた」などの前向きな感想があり、有意義な研修会となりました。



【事業継承研修会】

2) 【美郷町】 きんかん承継体制づくりにかかる専門家相談を実施

7日に、農業承継専門家を招聘し、美郷町のきんかん承継体制について宮崎県農業振興公社、美郷町役場、JA、普及センターの関係者で相談会を開催しました。

専門家から農業分野での事業承継の必要性や進め方についてご説明いただき、農業者の承継支援ツールや相談先、準備すべきこと等を学びました。また、美郷町への助言もあり、今後の取組の参考になりました。

今回の学びを、今後の活動に活かして、円滑な承継体制づくりを進めていきます。



【専門家による助言】

3) 【全域】 若手農業者等と農業経営指導士との意見交換会を実施

7日に、JA日向本店で、就農相談者を含む若手農業者と農業経営指導士との意見交換会が実施され、若手農業者等9名、農業経営指導士ら先輩農業者9名、関係機関26名が参加しました。

意見交換会では、経営指導士の新門氏より、「就農から現在の経営に至るまで」と題して講演を実施後、パネルディスカッションと意見交換を行いました。

意見交換会終了後に開催された交流会では、先輩農業者とだけでなく、若手農業者同士でも交流が行われ、農業者同士の接点をつくる良い機会となりました。

今後も、若手農業者の確保及び早期定着に向け、継続的に支援していきます。



【若手からの発言】

4) 【門川町】 スイートピー部会の作業指示動画の作成を支援

14日に、スイートピー生産者ハウスにて、多様な人材確保を目的とした作業指示動画の撮影を行いました。

今年度からスイートピー部会で、動画作成に取り組んでおり、今回は、収穫期間中に作業が遅れやすい管理である、つる・わき芽・下葉取り、誘引作業の撮影を行いました。動画では、作業手順や除去対象の基準、注意点等を生産者と確認しながら撮影しました。作成した動画は部会で共有して活用してもらい、援農隊HPへの記載等も予定しており、引き続き、多様な人材確保や育成に向けて支援していきます。



【スイートピーでの動画撮影】

5) 【全域】 水稻大規模経営体ネットワーク化にかかる検討会を実施

20日に、JA、普及センターの関係者で管内におけるネットワーク化の目的や内容等を検討しました。

事例としてJAグループが取り組んでいるJAファームひゅうがの稲わらと牛ふん堆肥交換事業やWCSにおける耕畜連携について実績を共有していただき、今後の展開について意見交換を行いました。

検討会では、畜産飼料が高騰する中、管内での飼料供給体制をより強化していく必要性や具体的取組に向けての意見交換となりました。



【今後に向けた意見交換】

6) 【全域】 日向地域農業再生協議会担い手対策部会事務局会を実施

22日に、日向地域農業再生協議会担い手対策部会事務局会を実施し、JA、普及センターで議論しました。

会では、管内における担い手の確保・育成について、JA、普及センターの本年度の活動実績や来年度の活動の方向性を共有し、来年度の担い手対策部会の活動等について検討を行いました。

今後も引き続き、関係機関と協力し、管内の担い手の確保等を支援していきます。



【熱心な議論】

7) 【美郷町】 重点農家で実施の日本種子協会展示ほ生育状況確認

6日、美郷町南郷に設置している日本草地畜産種子協会展示ほの生育状況確認を行いました。

この展示ほは、管内で栽培の少ないオーチャードグラスの新品種「まきばゆうか」が管内地域での栽培に適応しているかを確認するとともに、飼料の増産を目指すことを目的としています。

今回、12月4日に播種したオーチャードグラスの生育状況を確認したところ、発芽良好で獣害被害も見られませんでした。今後も、定期的に生育状況を確認していきます。



【オーチャードグラス】

8) 【美郷町】鬼神野地区水田の畦畔斜面に設置した抑草ネットの現地確認

27日、水田畦畔斜面の雑草管理作業省力化を目的に設置した「抑草ネット」が、設置後1年が経過することから、同資材メーカー職員によるネット状況確認と設置後の斜面管理をされた生産者と意見交換を行いました。

生産者からは、コンバイン等機械使用時の支障は無かったが、下部側のネットで覆えてない狭い畦畔部分の草刈り作業が、足場が狭いため作業がやりにくかったことや、ネットの裾部分のみ、強度を補強して欲しい等の提案もありました。

メーカー職員からは、裾部分の補強は、10cm程度内側にネットを折り込んで二重にして設置する対応をしてはどうかとの助言がありました。

この意見交換内容も参考にしつつ、3月開催予定の同地区役員会で「抑草ネット」波及に向けた意向把握のアンケートを行う予定です。



【メーカーとの点検】

9) 【美郷町】茶苗生産状況を現地確認

9日、宮崎県茶業協会が、令和6年春植用茶苗の生産状況及び出荷本数について、茶業支場研究員と専門技術指導員も参加し現地確認を行いました。

茶の育苗受託は、美郷町西郷の小松種苗園が空きハウスを活用し、令和3年度から始めています。

3年目ということで、日頃の丁寧な管理が良質苗の生産体制が構築され、計画本数を無事達成することができました。2月下旬から順次出荷されます。

来年度も、茶苗の安定生産に向け継続した技術支援を行っていきます。



【苗の品質確認】

10) 【日向市・門川町】冬春ミニトマトの展示ほ調査を実施

9日、日向市と門川町に設置しているミニトマトの展示ほの調査を実施しました。

展示ほでは、管内の主力品種である「サンチェリーピュア」を対照に、黄化葉巻病耐病性の「TYクララスイート」と多収性の「ダルタリー」の2品種の生育や収量、果実品質、黄化葉巻病の発生状況などを毎月調査しています。

これまでの調査では、両品種とも黄化葉巻病の発生は確認されていませんが、果実糖度は「TYクララスイート」で高く、収量性は「ダルタリー」で高い傾向が確認されています。

引き続き、栽培終了時まで継続調査を行い、技術員会でとりまとめて生産者に情報提供する予定です。



【果実品質の調査】

11) 【日向市・諸塚村・美郷町】シキミの春彼岸出荷に向けた出荷数量を調整

16日、J A日向西郷支店において、部会役員10名、関係者7名が参加し、J A日向シキミ部会役員会が開催され、年末出荷実績の確認と春彼岸出荷に向けた出荷数量の調整が行われました。

普及センターからは、栽培実態アンケートの集計結果の報告を行うとともに、地域の振興計画を策定して産地維持を支援していくことを報告しました。

また、近年特に発生が増加しているシキミの枯れ症状のアンケート調査の実施について役員から了承を得たため、これから枯れ症状の詳細な実態調査に取り組んでいきます。



【シキミ役員会】

12) 【日向市、門川町】露地へべすの管理講習を実施

20日、日向市内の3園地にて生産者32名、関係者2名が参加し、支部別講習会が開催されました。

講習会では、土壌改良や施肥、病虫害防除について説明が行われました。普及センターからは着果率調査結果（発芽期以降の葉面散布の必要性）、病虫害防除に関する補足説明を行い、また剪定方法の要点を説明しました。

生産者によっては既に剪定を終えたところもあるとのことでしたが、剪定方法（枝の切り方等）について質問が出されました。



【支部別講習会】

2 プロジェクト（基本、専門）以外の普及活動

1) 【日向市】鳥獣被害対策に係る研修会の開催

20日に日向市役所で受益者5名が参加し、鳥獣被害対策研修会が開催されました。

室内研修では、農林振興局から、令和4年度の鳥獣被害の現状について説明され、普及センターからは、集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策について説明しました。

県鳥獣被害対策支援センターから、鳥獣被害の要因、鳥獣被害の考え方、鳥獣被害対策の基礎知識、ワイヤーメッシュ柵設置等のポイントについて解説がありました。

また、日向市の担当者からは、国の鳥獣被害対策交付金の柵設置事業の確認事項の説明がありました。

その後現地ほ場に移動し、専門業者を交えてワイヤーメッシュ柵設置の実技研修が行われ、設置方法の説明の後、協力して柵を設置し、お互いに設置方法を確認していました。

今後は、集落で鳥獣被害対策を推進するため、3月末までに柵の設置作業を地元で自力施行していきます。



【鳥獣対策室内研修】



【柵設置現地研修】

2) 【椎葉村】肉用牛繁殖農家の現地検討会

28日、椎葉村の肉用牛繁殖農家1戸について、椎葉村役場を中心として現地検討会が開催され、検討会にはJAや振興局も参加しました。

検討会では、今年度の農場成績の分析と改善に向けた取組について、獣医師が作成した資料を基に説明がありました。農家自身も農場の現状を理解し、改善に向け前向きな様子が見受けられました。

来年度は、今回の検討を生かして、関係機関と連携を強化し支援を行っていきます。



【農家との検討】

3) 【諸塚村、椎葉村】夏秋品目の防除暦検討

14日、JA日向西郷支店において、関係者5名が参加し、次作に向けた防除暦検討会が開催されました。

検討会では、夏秋ミニトマトとほうれんそうの防除暦について、令和5年産の農薬使用実績や病虫害発生状況の振り返りを行いながら、次作に向けての防除暦を作成しました。

ほうれんそうについては、4月に生産者へ説明を行い病虫害防除に努め、品質向上に繋がります。



【防除暦検討会】

4) 【諸塚村】令和6年産夏秋ミニトマト防除暦の周知

27日、JA日向諸塚支店において、生産者13名、関係機関4名が参加しての夏秋ミニトマト作付講習会が開催されました。

肥料メーカー担当者から、特に生育初期の栽培管理について講話があり、生産者は時折質問をしながら、熱心に聞き入っていました。

普及センターからは、新しく作成した令和6年産夏秋ミニトマトの防除暦について周知しました。昨年産の暦から2剤の変更等について説明を行いました。

定植は4月頃予定の生産者が多く、すでに栽培に向けての準備は始まっています。



【作付に向けた講習】

5) 【日向市、門川町】スナップエンドウ全戸巡回で適期防除を指導

19日、関係者4名が参加し、スナップエンドウ生産者21名のハウスを個別巡回し、今後の管理方法について助言を行いました。

暖冬の影響により全体的に生育が早進し、特に9月下旬に播種したほ場では、4月末までの収穫が難しい状況が見込まれました。普及センターからは、気象情報に基づき病害虫防除の指導を行いました。

今後も定期的に巡回を開催し、収量・品質の向上に努めていくこととしています。



【順調な生育】

6) 【全域】営農振興協議会野菜技術員会を開催

22日、普及センターにおいて、市町村やJA等の関係者12名が参加し、技術員会を開催しました。

技術員会では、主要野菜の生産、販売状況について情報交換を行ったほか、広島県で実施したミニトマトの県産品点検の結果を共有しました。

今回は、冬春ミニトマトの産地ビジョンの進捗確認を行います。

7) 【門川町】難防除害虫調査を支援

13日、門川町内現地にて、生産者1名、関係者3名が参加し、門川町蔬菜園芸振興会の難防除害虫調査が実施されました。

同振興会では、門川町内の栽培施設に黄色粘着板を1週間ほど設置して、コナジラミ類、アザミウマ類の誘殺数を調査する活動を定期的に行っています。

今回、黄色粘着板の設置と回収、害虫の誘殺数をカウントし、地域ごとの結果の取りまとめを行ったところ、全体の誘殺数は少ない傾向でしたが、一部に多発しているハウスもありました。

今後はハウス外からの害虫の飛び込みが多くなる時期です。自身のハウスはもちろん、適切な防除による近接農家に配慮した営農が求められます。



【トマトでの害虫調査】

8) 【椎葉村】春の七草実績検討会が開催

27日、椎葉村開発センターにおいて、生産者8名、関係者3名で春の七草実績検討会が行われました。

出荷数量は、生産戸数減により前年をやや下回る約5万4千パックとなりましたが、販売単価の引き上げにより、ほぼ昨年に近い販売額となりました。

会では、販売現地調査の結果や店頭に並んだ写真等を確認しながら、次年度に向けた改善点等が話し合われ、品質向上に向けた意識統一が図られました。来月には、九州春の七草生産者交流会も計画されており、他産地を迎える準備も着々と進んでいるようです。



【春の七草実績検討会】

9) 【椎葉村】ほうれん草専門部で産地ビジョン検討会を開催

20日、ほうれん草専門部を対象に産地ビジョン検討会を開催し、生産者6名、関係機関4名が参加しました。

全戸が回答したアンケートを基に産地の成り行き予測を説明し、ビジョン作成に取り組むことを提案しました。

生産者からは、情報共有の必要性や話し合う機会をもっと作るべきだとの意見もだされ、次年度から作成に取り組む合意が得られました。当日参加できなかった方には、個別に説明を行う予定です。次年度は産地ビジョン作成に向けて支援を継続していく予定です。



【産地ビジョンを検討】

10) 【椎葉村】次作に向けた施肥設計を支援

27日に、ミニトマト生産者に対して土壌分析に基づく施肥設計支援を行いました。

2月中旬から、ミニトマトやほうれんそうの生産者の土壌分析結果が徐々に届きはじめ、順次対応しています。

各品目の実績検討会でも、土壌分析に基づく土づくりや施肥設計を推進しており、これからも実践する農家が増えてくれればと期待しています。



【対面での施肥設計】

11) 【日向市、門川町】マンゴー、ハウスへべすの個別巡回を実施

6日、8日、13日、19日に日向市、門川町にて、生産者7戸、関係者2名で、マンゴー(4戸)、ハウスへべす(3戸)の個別巡回を実施し、13日はハウスへべすの着果安定に向けた果樹担当専技の現地指導をお願いしました。

ハウスへべすは早いところが出蕾期で、一部開花もみられました。普及センターは生育ステージに合わせた管理方法について個別に確認を行いました。

マンゴーではハウス毎に生育ステージが異り、主に出蕾～開花期を迎えています。早いところは果実肥大期(摘果作業)で、生産者の要請による現地対応が増えています。



【マンゴーの着果状況】